

MAIL MAGAZINE

メールマガジン

貿易戦争の影響！？

JSC 貿易部ニュース 中国編

いつもお世話になっております。



VS



アメリカと中国の貿易戦争が激しさを増してきております。先日、取引先の中国会社社長と話をしていると、アメリカに輸出している人造のセラミックタイルは、今後 200%~300%の報復関税の対象に含まれることになる様で、頭が痛いとおっしゃっていました。当社が扱っているような天然石の対米輸出には、それほど関税が掛けられないようですが、アメリカでも生産されているセラミックタイルは、自国産業保護のためアメリカの国内生産単価に合わせるように関税を調整している模様です。まだ実施はされていませんが、中国の輸出業者はどうしても避けがたい状況になれば、ベトナム等の第三国を介してその国の製品としての輸出も考えている様です。さすが、中国企業は商魂逞しくて良いですね！

でも、結局は両国とも消費者が高い関税の掛かった製品を買わされてしまうことになります。消費者目線で考えると、本当に自分たちのことも考えてくれているの？ということになりますが、政治家や商売人はそういった状況の中でも勝機・商機を見つけて積極的に攻めないとは駄目なようです。

中国の石材業界の経営者達と話をしていると、石材の商売もあと何年続けられるんだろと言ったネガティブな話もよく出てきますが、先日、来社頂いた中国工場の社長さんは、「石の仕事は無くなら無いですよ！ 私は、あと30年はやりますから」と言って帰って行きました。そんな話を聞いていると、私とは見えている物が違う様な気もして、自分もこんなことじゃダメだと反省をさせられる面談でした。

冒頭の話、米中の貿易戦争に関しては、恐らく両国ともなかなか引かないので、長引きそうな気はしますが、日本も他人事ではありません。お互いが妥協できる良いところで落ち着くことを願うばかりです。1980年代には、日本もアメリカとの貿易摩擦で厳しい交渉を迫られたわけですが、落ち着くところに落ち着いたというか、乗り越えたと言うのか、過去のことになっているわけですから、米中にもいつか和解の日が来るのだと思います。

ひとつ言えるのは、どんな時代も、ポジティブな人は見えているものが違う！ポジティブな目で見れば、「不況もまた良し」。そう考えればいつでも好機なのかもしれませんね。私たちが、その姿勢で頑張っていきます。

今月の石のご紹介です。

皆さんは、ブラウン系の石と言えば、どのような石を思い浮かべますでしょうか？

横型のお墓で建墓される際に、好まれよく使用されてきたブラウン系の石。

一般的には、「スウェーデンマホガニー」「インドマホガニー」「新マホガニー」「クリスタルブラウン」、そして最近では、「インド八重桜（インドクリスタルブラウン）」などが思い浮かびます。



インド八重桜（インドクリスタルブラウン）

これらの石は、ヨーロッパやアフリカ、インドなど中国以外で産出されているものが多く、輸送コストなどを勘案すると必然的に原石価格も高くなりがちでした。

その為、「茶色＝価格の高い高級材」といったイメージをお持ちかも知れません。

今回はそんな高級材としてのブラウンの、イメージを覆す新石種をご紹介します。

その名もマリーブラウン！



ヨーロッパを思わせる名前ですが、産地は中国でございます。

インド八重桜（インドクリスタルブラウン）を薄くした感じです。

濃いブラウンではないですが、逆に落ち着きが出ており、穏やかな薄茶色が特徴的でございます。協力工場ではこれまで、3基ほど洋墓を生産していますが、ご好評のようです。

サイズも長さは270cm、角周り120cmは取れますので全国的に対応が可能です。

気になる価格面も、ヨーロッパ・アフリカ・インド産のブラウン系と比べるとお求めやすい価格になっています。

但し、まだ新しい石ですので、今後の経年変化については観察しながら確認をしていく必要があるかと思えます。

日本石材センターの貿易部では、お客様に安心してご使用いただける素材をお届けできるよう、経年変化といった部分もしっかりと確認をしながらお勧めしてきたいと思っておりますので、この「マリー・ブラウン」についても、引き続き経過も観察しながら改めてご紹介させていただきます。

よろしくお願い致します。

2018/12/01